

赤兎山周辺のアザミウマ類

柴田智広*¹

要旨：著者は 2015 年から 2023 年にかけて赤兎山周辺に生息するアザミウマ類を調査した。本報では調査の結果得られた 4 種のアザミウマを報告する。

キーワード：赤兎山, アザミウマ類

Tomohiro SHIBATA*¹. 2024. Thrips around Mt. Akausagi. Ciconia (Bulletin of Fukui Nature Conservation Center) 27:53-55.

Four thrips species collected around Mt.Akausagi were listed.

Key words: Mt.Akausagi, thrips

はじめに

アザミウマ類は体長 0.8~7mm 程度の昆虫で低地から高山までの花・葉・茎・根などの植物組織上、森林などの堆葉層、枯葉・枯枝など枯死植物上、キノコなどの様々な環境に棲息し、現在日本に 4 科 450 種以上が知られている (岡島・榎本 2022) 多様性に富んだ昆虫である。福井県では福井県昆虫目録に 3 種が報告されているのみであった (岸本・佐々治 1998) が、著者はその後の調査で福井県産のアザミウマ 58 種 (未同定 7 種含む) を報告した (柴田 2015, 2016a, b, 2017a, b, 2019, 2020, 2022)。しかしながらこれまでの調査は主に平野部で行われており、山岳域の調査は不十分である。

赤兎山 (標高 1,628.7m) は石川県との県境にある山で、三ノ峰 (標高 2,138m) の西方、白山山系の南西部に位置している。赤兎山の所属する白山山系の高山帯は日本の高山帯の最西端となるため、多くの北方系植物がこの地域を分布の西限もしくは南限としている (福井県自然環境保全調査研究会監修 1999, 渡辺 2003)。植物に限らず昆虫も本地域を分布の西限としているものが多く (福井県自然環境保全調査研究会 1985, 福井県安全環境部自然環境課 2016) 動植物の分布上重要な地域となっている。

著者は 2020 年、2021 年に三ノ峰におけるアザミウマ相の解明を目的として調査を行っている (柴田 2022, 2023)。今回の赤兎山におけるアザミウマ相の調査は、①三ノ峰で採集されたアザミウマ類の他の地域における分布の調査、②福井県の各標高 (海岸か

ら内陸の低山を経て奥越の高山まで) 及び自然環境ごとのアザミウマ相の変化の把握を目的としている。

調査地と調査方法

調査は 2015 年 10 月 3 日、2017 年 7 月 22 日、2023 年 8 月 12 日の計 3 回、小原峠周辺のブナ林と山頂周辺の草原にて実施した。登山口 (勝山市小原集落側) から小原峠までの道沿いには比較的樹齢の若いブナ林が広がる。山頂周辺はササ類・イネ科植物などの草原が広がり、夏季には花を咲かせた草本類も多く見られる。調査は上記の地域を歩きながらアザミウマの生息環境を見つけて行った。

採集はビーティング法 (受け具は枯れ枝には大型の布を、草や花には小型のプラスチックトレイを用いた) とルッキング法 (花の中にいるアザミウマを探し小型の絵筆で掬い取る) で行った。得られたアザミウマは管瓶に入れて持ち帰った。その後、永久プレパラート標本を作製し光学顕微鏡を用いて同定した。標本作製方法は基本的に Okajima (2006) に従った。同定は、クダアザミウマ科は Okajima (2006) アザミウマ科は Masumoto (2009) に従った。標本はすべて著者が採集・保管している。

結果

今回の調査を通して赤兎山周辺からアザミウマ科 4 種が記録された。種名は学名と和名のあるものには和名を付す。同定は著者による。

* 連絡・別刷請求先 (Corresponding author) E-mail: bactrothripsbrevitubus@gmail.com

¹ 福井市自然史博物館友の会〒918-8006 福井県福井市足羽上町 147

Friendship Society of Fukui City Museum of Natural History. Asuwakami-cho 147, Fukui, Fukui 918-8006, Japan.

Thripidae アザミウマ科

Thripinae アザミウマ亜科

Frankliniella intonsa (Trybom)

ヒラズハナアザミウマ

山頂周辺の草原:

6♀, 22.VII.2017. ニッコウキスゲの花

1♀, 22.VII.2017. ミヤマシシウドの葉

Taeniothrips oreophilus Priesnerl

アシグロハナアザミウマ

山頂周辺の草原:

1♂1♀, 22.VII.2017. ササユリの花

1♀, 22.VII.2017. ニッコウキスゲの花

Yoshinothrips pasekamui Kudo

小原峠周辺ブナ林:

1♀, 22.VII.2017. ブナの枯枝

Phlaeothripidae クダアザミウマ科

Phlaeothripinae クダアザミウマ亜科

Haplothrips aculeatus (Fabricius)

イネクダアザミウマ

山頂周辺の草原 (赤池付近):

1♀, 22.VII.2017. カヤツリグサ科草本

考察

ヒラズハナアザミウマとイネクダアザミウマは福井県内の低地でも普通に見られる種である。大野市三ノ峰周辺でも記録されていて(柴田2022)低地から高山かけて広く分布しているようである。*Yoshinothrips pasekamui*も同様の分布を示す。本種はイネ科草本と関りを持つが今回は枯枝から採集されている。アシグロハナアザミウマは大野市剣ヶ岩周辺でオオバギボウシの花から記録されている。

本報で同定された4種の他に、ササユリ・シシウド・ヒメオドリコソウ・キンコウカ・イネ科草本から数種のアザミウマ亜目が、ガマズミの葉・スゲ科草本

から数種のクダアザミウマ亜目が採集されており、調査中である。

以下、特記事項を挙げる。①調査は不十分であるものの、種構成としてはアザミウマ亜目が多くクダアザミウマ亜目(特に菌食性の種)は少ないようである。②2023年8月12日の調査ではブナ林内で枯枝棲息性の種を重点的に探したが採集されなかった。枯枝棲息性の種は棲息したとしても極めて少ないと思われる。

今後も調査採集を継続し、未同定の種について詳しく調査していく予定である。

謝辞

本稿を取りまとめるにあたり、福井県自然保護センターの五十川祥代氏は様々な便宜を図ってくださった。心より御礼申し上げます。

引用文献

- 福井県安全環境部自然環境課(編). 2016. 改訂版福井県の絶滅のおそれのある野生動植物. 福井県安全環境部自然環境課, 福井.
- 福井県自然環境保全調査研究会(編). 1985. みどりのデータバンク総括報告書. 福井県, 福井.
- 岸本修・佐々治寛之. 1998. アザミウマ目 THYSANOPTERA. 福井県自然環境保全研究会昆虫部会編 福井県昆虫目録第2版. 福井県県民生活部自然保護課, 福井. pp. 63.
- Masumoto, M. 2009. Taxonomic study of Japanese Thripinae (Thysanoptera, Thripidae), with consideration of supra-genetic relationships based on morphological characters. Doctoral thesis. Tokyo University of Agriculture, Tokyo. pp. 671.
- Okajima, S. 2006. The Insect of Japan Vol.2: The Suborder Tubulifera. Touka Shobo, Tokyo.
- 岡島秀治・榎本雅身. 2022. 日本原色アザミウマ図鑑. 全国農村教育協会. 東京.
- 柴田智広. 2015. 福井県産オオアザミウマ亜科の分布記録. 福井市自然史博物館研究報告 62: 81-82.
- 柴田智広. 2016a. 福井県産土壌性アザミウマの分布記録. 福井市自然史博物館研究報告 63: 85-86.

- 柴田智広. 2016b. 福井県産 *Hoplothrips* 属 3 種の記録. 福井市自然史博物館研究報告 63:87-88.
- 柴田智広. 2017a. 足羽三山周辺のアザミウマ. 福井市自然史博物館研究報告 64:63-68.
- 柴田智広. 2017b. ヨッコブトゲクダアザミウマのササ類からの採集記録. 福井市自然史博物館研究報告 64:93-94.
- 柴田智広. 2019. 足羽三山周辺のアザミウマ 補遺 1. 福井市自然史博物館研究報告 66:85-88.
- 柴田智広. 2020. 坂井市三国町における *Ethirothripsantennalis* の採集記録. 福井市自然史博物館研究報告 67:87-88.
- 柴田智広. 2022. 三ノ峰周辺のアザミウマ類. 福井県自然保護センター研究報告 25:43-49.
- 柴田智広. 2023. 三ノ峰周辺のアザミウマ類 (2021年の記録). 福井県自然保護センター研究報告 26:79-82.